2011年度大阪女学院中学校・高等学校事業報告書

Ⅰ．建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

・キリスト教に基づく人間理解の深化
大阪女学院中学校・高等学校は女性が一個の人として、何らかの方法で働く義務を悟り、正直に仕事をすることを誇りとし、日常生活の雑事を越えて、物事を見抜く力のある人間を育むことを目指す。宗教教育については、長年の実績の積み重ねを踏まえた上で、キリスト教に基づく人間理解を深め、一人ひとりがかけがえのない存在であることの自覚を促し、生徒自らの生き方と他者とのかかわり方を学ばせる。
また、入学後、保護者に対しても、学校への理解を深めてもらえるよう努める。

1）年間聖句　「あなたがたの光を人々の前に輝かせなさい。」
（マタイによる福音書５章１６節）

2）礼拝　【中学校】　・月、水、金　は中学１年、中学２年、中学３年合同でチャペル礼拝
・火、木、土　はクラス礼拝
【高等学校】　・火、木、土　は高校１年、高校２年、高校３年合同でチャペル礼拝
・月、水、金　はクラス礼拝
・英語科英語礼拝　（年８回）OCC ホール
・英語礼拝　（年４回）チャペル
・特別礼拝　音楽礼拝（年３回）、イースター礼拝、母の日礼拝、花の日礼拝、収穫感謝礼拝、クリスマス礼拝、伝道週間特別礼拝

3）修養会

Ｊ１　７月６日(水)～８日(金)　１泊２日　２班　会場　VIP アルパインローズビレッジ
主題　「顔を上げて前向きに」～見つめよう　自分の心、人の心～
講師　梅谷悟先生（加古川バプテスト教会牧師）

Ｊ２　７月６日(水)～８日(金)　１泊２日　２班　会場　舞子ビラ神戸
主題　「心を澄ます」
講師　谷本仰先生（日本バプテスト連盟南小倉教会牧師）

Ｊ３　９月２日(金)　会場　学内ヘールチャペル
主題　「歩かれへんけど歩いてる」
講師　牧ローニ先生（聖公会　聖ヨハネ教会員）

Ｓ１　７月６日(水)～８日(金)　１泊２日　２班　会場　神戸市立フルーツフラワーパーク
主題　「本当の"絆"プロジェクト」
講師　大橋謙一先生（クライストコミュニティーチャーチ武庫之荘チャペル牧師）

Ｓ２　９月３日（土）に佐々木拓也先生（エレベートチャーチ牧師）とナイト de ライト（ゴスペルバンド）をお招きしていたが、台風による暴風警報によって出校停止となり、修養会は中止された。

Ｓ３　７月６日(水)～８日(金)　１泊２日　２班　会場　ユニトピアささやま
主題　「勝っても負けても君命」
講師　波多康先生(聖書キリスト教会協力牧師)
KIKI さん（ゴスペルシンガー）

4）伝道週間　　9月26日(月)～10月2日(日)
主題講演講師　奥田知志先生（日本バプテスト連盟東八幡キリスト教会牧師）
5）宗教行事
12月10日（水）J・S　市岡裕子さん　ゴスペルコンサートとお話
3月12日（月）J・S　前田圭子さん（日本YWCA被災者支援プロジェクト担当幹事）講演
6）公開クリスマス　12月17日（土）　3回実施
7）中学校、高等学校　宗教行事感想文集「えのき」発刊

建学の精神の再認識と再構築

女子校から共学に改組する学校が多い中、本校の建学の精神を再認識し、教育理念を確認しつつ充実した教育に努める。

・本校の建学の精神、沿革、等をまとめた冊子『愛と奉仕』を、新入生全員に配布し、入学当初の聖書の授業を通して内容を理解させた。また、聖書を学ぶ集いをヘール会主催で年間4回行い、保護者に建学の精神、教育理念への理解を深めた。
・「祝福された手」～宣教師ミセスドレナンの生涯～を全校生徒に配布、チャペル礼拝にてドレナン先生について学びの時をもった。
・キリスト教学校フェアへの参加
7月30日（土）於　東梅田教会
大阪地区のキリスト教学校と協力し合いながら、準備を進め、受験予定者に対して建学の精神、教育理念を広めた。
・女子中フェアへの参加
4月21日(木)　シェラトン都ホテルにて
6月19日(日)　御堂会館にて
大阪地区の私立女子中学校が集まり、女子校の良い点について講演があり、女子校の意義を、受験生、保護者に伝えた。各校のブースでは、具体的な質問に丁寧に答えながら、学校に関心を持っていただくことができた。御堂会館のホールではハンドベル部が演奏を披露した。

Ⅱ．教育の内容

上記の教育理念を具現化するため、生徒一人一人に与えられた賜を生かし、社会に貢献するための学力、協調性をもった行動力、自己と他者を大切にする人権意識、円滑な社会生活を営むための規範意識、そして世界平和を実現するための国際性を身につけることを目指し、以下の取り組みを行う。

1．学力向上の取り組み 本校における一貫カリキュラムの成果と課題についての検討を更に進め、各教科の学力の向上と定着を図るための検討を進める。（詳細はⅥ－3）

2．授業内容の充実のための取り組み 2週間時間割の導入により、技術家庭の実習時間を充実させ、より効果的な授業を行う。また、2週間時間割により、授業日を増やすことによって、授業内容を充実させ、学力の向上と定着をはかる　（詳細はⅥ－2）

２週間時間割の導入により、実習時間を充実させ、より効果的な授業を行うことを目指してきた。２年目を迎え前年度の反省を活かして、より授業時間と日数を増やすことによって、授業内容を充実させ学力の向上と定着をはかった。

３．生徒の人権意識を深める取り組み

解放教育（人権教育）については、「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、一人ひとりが大切にされる解放教育を目指す。また世界の人権状況と人権獲得の歴史を学び、守り、発展させていく意味を考えさせ、各学年の成長過程に応じて生徒自らの人権意識を深める取り組みをテーマを決めて行う。また、携帯電話・インターネットの扱いやいじめの問題に対する生徒の問題意識を更に深める。

「私たちの人権感覚を問い直そう」～一人ひとりを大切にしよう～という教育目標の下で、各学年別年間目標をたて実施した。

＊　学年別テーマ

中１「自分を見つめ、周りを見つめよう。共に生きるために」
中２「平和と戦争について考える」
中３「HARMONY～真心を込めて届けよう～Let your sounds ring」
高１「世界の貧困と飢餓、他文化・他地域との共生」
高２「人権・共生の視点で日本における民族的マイノリティーのアイヌ文化と在日コリアンについて学ぶ」
高３「縁」から「円」、そして「球」へ

＊　中学平和を考える日

中学３年生の修学旅行平和学習感想文代表者発表と反戦平和映画「ゼノ神父」鑑賞

４．生徒の生活全般に対する指導

生活指導については、中学・高校それぞれの発達段階を考慮しつつ、一貫した原則の下に生活全般について指導を行い、現代社会が生じさせる個々の問題に対し具体的な対応をしていく。
特に、基本的な生活習慣・社会のルールを身に付けるよう指導し、時間、物の管理、服装や身だしなみ、礼儀、公共のマナーや美化等について、周りに配慮して行動できるように指導する。
（詳細はＶ－２）

５．国際理解教育の推進

留学や留学生との交流を通じ、言語への関心を深め、言語や文化の違いを知ることで、世界に目を向け、広い視野をもって物事を考える生徒を育てる。（詳細はⅥ－５）

Ⅲ．教育の実施体制

１．生徒の安定的な人数確保のための取り組み

今後とも長期的に続く少子化への対応、大阪府の公立学校改革への対応を検討し、実施する。
また、中学入学者の人数確保を安定的に行っていくため、中学の入試結果の集計や分析を更に充実させ、次年度の入学予定者の把握に役立たせると共に、受験生の保護者の学校理解を深める。
高校入学者の増加を計るため、公立中学校の訪問等具体的な方策を継続する。

中学について

募集人数	２１０名							
	前期						後期	
	A方式（専）			B方式（併）			併願	
	４科	３科	合計	４科	３科	合計		総合計
出願者数	２７３	５１	３２４	１４０	３１	１７１	３２９	８２４
欠席者数	５	０	５	６	０	６	２５５	２６６
受験者数	２６８	５１	３１９	１３４	３１	１６５	７４	５５８
合格者数	２３０	４０	２７０	１３０	２９	１５９	４０	４６９
手続前辞退者	５２	１４	６６	１０９	２７	１３６	３４	２３６
入学手続者	１７８	２６	２０４	２１	２	２３	６	２３３
手続後辞退者	１６	２	１８	４	０	４	０	２２
入学者	１６２	２４	１８６	１７	２	１９	６	２１１
帰国生入試	１							１
入学者	２１２							２１２

中学入試は今年度より、前期A方式(前A)、前期B方式(前B)で従来の４科目入試(国語、理科、社会、算数)だけでなく、３科目（国語、理科、算数）での受験を可能とした。それによって、受験生にとっては受験しやすくなり、幅広い受験生を受け入れる体制が整った。

今年度の出願数は前年度に比べ、前Aの出願数は３５減であったが、前Bでは４２名増、後期試験(後期）では３９名増と合計では増加に転じた。これは前Bと前Aとの合格点の差を少なくしたためである。入学者は前A、５名増、前Bは増減なし、後期は３名減となって合計では２名の増加となった。この入学者の中にはW出願で前期、不合格であったが、後期で合格し入学してきたもの２名を含んでいる。

長引く不況の影響で受験校の数を絞って受験する傾向がある。また、私学ブームが去って塾へ行く生徒自体が少なくなっている。私立中学受験の受験希望校数を少なくして受験する受験生が増え、仮に希望するところに行けなくても公立中学に行き、高校受験で私学を目指す人も多くなっているようである。これは、大阪府の高校授業料無償化の影響もあるだろう。

今後、大阪女学院の教育については６年間一貫教育による教育の効果が大変大きいことを理解してもらえるようにしていかなければ行けない。

高校について

大阪府の施策である就学支援、高校授業料無償化の影響は意外に大きく、高校からの入学生は2011年度59名(併願17名)、2012年度88名(併願31名)と大幅に増え、募集の80名を上回った。合格者面接の中でも、併願の生徒が本校入学について積極的に考えての受験傾向が伺える。学費負担が軽減されることにより、本校を受験する生徒が増えたということは、本校の教育内容が評価されているということであり、今後も高校入学を希望する生徒のニーズを大切にしていく必要がある。

２．中学・高校の組織改善の取り組み

教職員の意識の共有化を行いつつ、組織の再構築と運営方法の見直しを続ける。管理職、部長、主任等の決定の方法、職務を見直し、中高一貫教育の更なる充実をめざす組織作りを図る。

(詳細はⅥ－1)

3．中学・高校としての図書館機能の充実

①蔵書の充実

a．学力低下や様々な背景をもつ生徒、また多様な要望をもつ生徒を教育・指導するために必要な資料の収集

b．職員の教材研究用の資料の収集

c．学校行事（遠足、修学旅行、文化祭など）の事前学習や準備に必要な資料の収集

d．キャリア教育に関する資料の収集

e．生徒の学習に役立つ資料の収集

f．生徒の知的好奇心をかきたてる多種多様な資料の収集

②利用教育　　資料・情報を使い、自律して学校生活や社会生活をおくれるように情報の探し方、入手方法などウェブ上、印刷ベースで紹介

③図書委員会活動の充実

a．文化祭への参加　例：各学年図書委員がテーマを決めて調査したものを展示

b．近隣の高等学校の図書委員と交流会をもつ。

④その他

生徒が授業以外に、部活動の資料や趣味の発表資料を作成したり、ＤＶＤを観ることが出来るように機器を充実

Ⅳ. 教育の実施体制

中学・高校としての図書館機能の充実

①蔵書の充実

a. 生徒の学習や学校教育行事の事前学習等に必要な資料の収集

b. 教職員の教材研究用資料の収集

②図書館の資料を利用する授業

a. 高校３年生の「現代社会」と「倫理」、高校２年生英語科の「異文化理解」の授業で情報収集のため図書館で授業を実施した。

b. 中学１年生の「歴史」の課題のための本を教員と共に司書が選書した。

③利用教育

a. 高校１年生「現代文演習」でプレゼンのために、中学１年生「地理」で国について調べるための資料ガイドを作成した。

④図書委員会活動の充実

a. 中学、高校とも年度初めに生徒図書委員の集いを開催、図書委員の仕事について全員が理解して活動に参加できた。

b. ジュンク堂書店での選書に例年より多くの生徒の参加があった。

⑤その他

a. 大阪府青少年読書感想文コンクールの高校課題読書の部で高校２年生の臼井ももこさんの作品が特選を受賞、全国コンクールで入選した。

Ⅴ．生徒支援

１．生徒の自己実現を促す進路指導

生徒が、自分の将来への展望を明確にした上で、より良い進路選択ができるよう、指導、助言をする。

①年間指導計画に基づいて、必要な情報を生徒・保護者に提供し、生徒の進路意識、学習に対するモチベーションの向上を図る。また、様々な職業やそれに繋がる学問分野についての興味や理解を深める機会をもつ。

②実力テストや、学力の推移を調査するテスト等により、生徒の学力や学習・生活実態を調査、分析し、進路委員会、学力検討委員会が職員会議等に生徒の学力向上の為の方策の提言を続けていく。

③高大連携を促進する。

④資料の整備や留学コーナーの設置、進路相談等、進路室利用の活性化を図る。

⑤高校３年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成する。

１）各学年の進路指導実施状況

中学１年　生徒、保護者進路説明会（１０月）

中学２年　生徒、保護者進路説明会（７月）

中学３年　生徒対象普通科文系・英語科説明会、普通科理系説明会（４月）

高校１年　第１回　進路説明会（進路選択と教科選択・オープンキャンパス参加準備）（６月）
第２回　進路ガイダンスⅠ（７月）
第３回　生徒進路説明会（進路選択と学習）（１０月）
第４回　進路ガイダンスⅡ（１０月）
第５回　進路ガイダンスⅢ（１月）
第６回　生徒進路説明会（高校３年の進路状況）（２月）

高校２年　第１回　生徒、保護者進路説明会（卒業生の進路状況と教科選択）（６月）
第２回　生徒進路説明会（模試データーの見方と目標と教科選択）（10 月）
第３回　生徒進路講演会（高３に向けて）（１月）
第４回　生徒進路説明会（高校３年の進路状況）（２月）
第５回　生徒進路説明会（志望理由書の書き方）（２月）
第６回　生徒、保護者進路講演会（希望者対象、奨学金について）

高校３年　第１回　進路説明会（調査書について）（４月）
第２回　生徒、保護者進路説明会（卒業生の進路状況と進路全般説明）（４月）
第３回　生徒進路説明会（センター試験、AO 入試、自己推薦入試説明）（６月）
第４回　生徒進路説明会（指定校推薦入試、調査書請求について説明）（８月始業式後）
第５回　進路ホームルーム（公募制推薦・センター入試出願説明）（９月）
第６回　生徒、保護者進路講演会（希望者対象、入試動向について）（１２月）
第７回　生徒進路説明会（センター試験自己採点と小論文説明）（１月）

高１～高３　教育実習生による大学紹介と学習のアドバイス」（６月）

2011 年度は高校１年生で新たな取り組みとして進路ガイダンスⅠ～Ⅲを実施した。

２）実力テスト関係

中学１年　学力・推移調査（４月）（１２月）（３月中学２年生用）

中学２年　学力推移調査　（１２月）（３月中学３年生用）

中学３年　学内実力テスト（４月）（１１月）、学力推移調査（１１月）

高校１年　スタディーサポート（４月）（９月）（３月高校２年用）

実力テスト（１１月）（１月）

小論文ガイダンス（１１月）　小論文テスト（１月）

高校２年　スタディーサポート（４月）（３月高校３年用）

実力テスト（７月）（１０月）（１月）

小論文ガイダンス（５月）（１２月）（１月）　小論文テスト（９月）（１月）

高校３年　実力テスト（５月）（６月）（９月）（１０月２回）

小論文テスト（５月）

３）普通科文系、普通科理系においてそれぞれ高大連携を促進した。

文系　神戸女学院大学（人間科学部）、関西学院大学（商学部）、関西大学（社会学部）、同志社女子大（学芸楽部 情報メディア学科）

理系　大阪大学（理学部生物学科）、大阪府立大学（生命環境科学部）、神戸薬科大学（薬学部）、理系セミナー

４）大学・短大・専門学校・留学資料の整備、進路相談（面談・電話）等、進路室利用の活性化に務めた。

５）高校３年生・既卒生の進路状況を把握し、各種資料を作成した。

・進路先冊子・卒業生からの進路アドバイス冊子配布

６）進路結果の概要は以下の通りである。

合格者数は，国公立大学は現役で 19 名が合格，また関関同立４大学は現役生で 158 名であった。国公立現役に関しては 2009 年度が 25 名、2010 年度が 32 名と増加したが、今年度は大幅に減少した。また、関関同立に関しても一昨年が 185 名、昨年が 183 名であったのに対して 20%近く減少した。関関立に関してはほぼ横ばいの数値であったが、特に同志社大が 2009 年度 38 名、2010 年度 42 名に対し、25 名と大幅に減少した。国公立・関関同立の減少は、今年度の成績上位者が例年と異なり関東の私大志向が強く、関東の難関大学に合格し国公立はもとより関関同立を受験しなかったことが数値には大きく影響している。（卒業生数は 2009 年度・2010 年度が 274 名、今年度は 289 名）

また、合格率について、関西学院は昨年並み、関西大と立命館は昨年より上昇、同志社大は昨年より減少し、かつ、同志社大の受験延べ人数が 151 名から 111 名に減少したことも影響している。

①2012 年卒業生　進路状況（最終進路）

	進　学					就職	その他	合 計
	大 学	短 大	専門学校	留 学	予備校	就職	その他	合 計
人数	230	10	7	5	37	0	0	289
%	79.6	3.5	2.4	1.7	12.8	0	0	100
%	83.1							
%	85.5							
%	87.2							
%	100							

②科別進路状況

	大学	短大	その他	合計
普通科	165（77.5%）	8（3.7%）	40（18.8%）	213
英語科	65（85.5%）	2（2.6%）	9（11.9%）	76

③大阪女学院大学・短期大学への進学状況

入試方法	受験者数		合格者数	
	大学	短大	大学	短大
学内選抜（専願）	2	3	2	3
学内選抜（併願）	6	2	6	2
一般(学内選抜以外)	12	2	10	2
Academic Interview	0	0	0	0
合計	20	7	18	7

2．心身の健康と安全を守るための生活指導と生徒支援

①自分自身の心身を健康に保つ方法を身につけるように指導する。そのために保健室・教育相談室（学校カウンセラー）、サポートルームと連携し、生徒・保護者をバックアップする。

②授業・学級活動・生徒会活動・クラブ活動・その他の活動が安全かつ充実したものになるように努める。

③学校外での生徒の事故やトラブル、迷惑行為等の窓口となり対応する。

④不登校や発達障がいなどの支援を必要とする生徒をサポートするために、2010年度より「支援教育委員会」を創設した。この委員会ではスーパーバイザーを招き、年５回 支援を必要とする生徒への対応と方針を協議してきた。また、サポートルームには指導員に常駐してもらい、支援の必要な生徒にアドバイスをおくりつつ、一時的な避難所としての役割をはたしてきた。今後も一人一人の生徒を大切にした支援教育を目指していく。

・遅刻指導をはじめ、正しい制服着用指導、移動教室の施錠確認や授業時間中の巡回、放課後の教室の整理整頓の見回り等、きめ細かな学年指導により、生徒自身のそれらに対しての意識が高まったと思われる。

・生徒の登校時の交通安全・危機管理に関しての重要性を見直し、教師が通学路で立ち番を実施した。併せて、挨拶励行、マナー指導も行うことができ、一般の方からの苦情も少なくなった。今後も継続して登校時の安全指導、通学マナー指導、挨拶励行運動を行う。

・不登校や発達障がいなどの支援を必要とする生徒をサポートするために、2011 年度も「支援教育委員会」を年５回開き、スーパーバイザーとともに、支援を必要とする生徒への対応と方針を協議することを継続してきた。また、サポートルーム常駐の指導員からの要支援生徒へのアドバイス、一時的な避難所としての役割は定着してきた。さらに来年度からは、保護者からの相談やクレームへの対応と、教員からの相談やアドバイスをしていただくために、スーパーバイザーであった臨床心理士の方に、教育相談室にカウンセラーとして来ていただくことになった。今後も一人一人の生徒を大切にした支援教育を目指していく。

Ⅵ. 改革・改善

２０１１年度の課題として、とりわけ以下の項目について重点的に取り組む。

１．組織の再構築と運営方法の見直しの継続 中学・高校の管理職、部長主任等の決定方法を検討し、より充実した教育が行える組織づくりを図る。

2008 年 6 月に中学校高等学校教員組織編成制度検討委員会によって始まった選挙制度の見直し、組織再構築の検討は、2009 年 11 月新委員会(中高校長・教頭・事務長・職員会議選出の４名の教員)に託された。職員会議での協議、理事会の決定を経て、新しい大阪女学院中学校高等学校選挙・選任規程(校長および副校長・教頭選挙規程、校務担当者選任規程)が、2011 年 7 月 26 日施行の日を迎えた。新しい制度の下、2012 年度の管理職、部長、主任の選出が、順次行われた。

この度の組織制度改革の中心は２つある。

１．学校の現状に合った選任方法を再構築すること

２．管理職、及び各部署の責任体制を明確にし、激動の時代に素速く、的確に対応できる組織とすること

上記１の観点から行ったこと

・選挙制度を維持し、その方法、被選挙権者の資格条項、任期等について大幅に見直しを行った。

上記２の観点から行ったこと

・中学・高校校長１人体制とし、副校長を置くこととした。
・教務部長も中高で１人とし、副教務部長を置くこととした。
・国際教育主任をはじめ国際教育委員会の担う校務の内容を明確にした。
・入試対策室長の選任時期、任期について見直しを行った。
・管理職、部長、主任等の校務分担の切り分けについても見直しを行った。

２．２週間時間割の実施 授業日を増やすことによって生徒の学力の向上と定着をはかる。専任教員の会議の効率化をすすめる。また、専任教員が２週間に一度、全日休日がとれるようにする。これにより労働環境を改善し、生徒への教育効果が高められるようにする。

２週間時間割により、僅かながら授業日数が増えた。技術家庭等の実習がまとまって出来る。全休がとれた週はゆとりをもって働くことが出来る。土日、祝日にクラブ等で出勤することの多い教員にとっては、平日の休みは貴重である等、利点はあるものの、単位数の少ない教科担当者の時間割に偏りが生じやすく、日常的に担任団が揃わないために不便で多忙である、行事等の関係で全休取得回数にかなり個人差が出るなど、予想されたこととはいえ課題も多い。教育の充実を目指すには、教員の健康を守り、ゆとりを生み出すことが急務であり、全教員、１週につき１日の全休の実現に向けて、教員の増員、時間割、授業形態の整理などの再検討が必要である。

３．生徒の学力向上について 中学・高校の生徒自主学習について、自主学習が効果的にできるような支援の検討をすすめる。

１．学力検討委員会(年間７回)による成績推移の分析、対策の検討
２．大阪府「実践的英語教育」強化事業(TOEFL 受験)への参画
３．中学全校で土曜日 12:00～12:40 を 自主学習プログラムを実施(年間 19 回／2 年目) 継続
毎土曜日に３限後、担任・副担任の先生方の監督で自身で決めた学習に取り組む。
４．土曜講座について（Ｓ１・２希望者対象）

Ｓ２→１学期(６回)　２・３学期(８回)

TOEIC・英作文・英文和訳・数学発展（文系・英語科・理系）

Ｓ１→２・３学期(８回)

英語標準（文系・英語科）・英検準２級対策

数学発展（文系・英語科・理系）・物理演習（理系）

５．水曜講座について（Ｓ３普通科文系・英語科Ｉ型の希望者対象）

Ｓ３→１学期　７回

TOEIC・時事問題・国際情勢・古典文法復習・小論文対策

６．ＢＢ講座について

Ｓ３→４月より１年間の申込者　１９名　Ｓ２→９月より半年間の申込者　２２名

利用時間(2012年４月～)　平日　19:30まで　土曜　16:40まで

定期テスト後～長期休み　9:00～16:40

７．中学学力推移調査、高校スタディーサポートを利用した成績推移の担任面談

４．新指導要領に向けて教育課程の見直し

中学校2012年度、高校2013年度の新指導要領完全実施に向け、本校の教育目標にも沿ったカリキュラムに改訂し、準備を行う。

中学校ではカリキュラムの見直しが完了し、2012年度より新指導要領に基づくカリキュラムが完全実施となる。中２、中３は、中学途中でのカリキュラムの切り替えとなるため、教科によっては、これまでの教科のシラバスと新指導要領による中１～中３までの教科指導のスケジュールとのすりあわせにしばらくは工夫が必要である。

高等学校では、2012年度より先行実施となる理科、数学についての変更を完了し、2013年度より、新指導要領に基づくカリキュラムが年次実施となるため、カリキュラムの見直しを進めた。

５．従来の国際交流推進委員会、姉妹校提携委員会、帰国子女委員会、カリフォルニア交流事業委員会、留学委員会、海外研修委員会を2009年度に統合し、「国際教育委員会」と名称を改め、新組織として出発した。その新組織をもとに留学生受け入れ・送り出しの業務を円滑に行う。また2011年から1ヶ月の短期留学としてオーストラリアのレーヴンスウッド校との交流を変更した。現在カナダに提携校を探し、本校独自の長期留学制度を発足させるため準備中である。本校からの派遣は2012年の予定。

2011年12月にカナダロングフィールズーデビッドソンハイツセカンダリースクールと姉妹提携校長期留学プログラム協定を結び、2012年度から交換留学を行う。本校への受け入れは2012年度秋、本校からの派遣は2013年秋からの予定。

６．経費の削減と効率化

大阪府の年収610万まで高校授業料無償化、年収800万円未満保護者負担10万円実施による学校負担を受け、諸経費を見直し、経費の削減と効率化を図る。

健全な経営を目指して人件費をはじめとした経費の削減と効率化、諸経費の見直しを行った。

7．施設内全面禁煙の取り組み
生徒・教職員の健康に配慮し、とりあえず教職員の喫煙ルームを廃止、施設内全面禁煙とする。さらに禁煙化の定着・充実をはかることができるようにする。

予定通り、喫煙ルームを廃止し、庭の喫煙場所もなくし、敷地内全面禁煙とした。
今後も、教職員の健康増進のため、禁煙を呼びかけていくこととする。

8．教職員の人権意識の向上
教職員の人権意識を更に深め、授業やクラブ活動での指導はもとより、日常における生徒との関わりの中で、生徒の人権に配慮した指導が十分出来るよう啓発と研修を行う。

＊教職員学習会
① 6/17　角岡伸彦さん（フリーライター）講演
「とことん部落問題＋α」
② 9/9　解放・生活指導・支援教育委員会合同「夏期研修報告会」
③ 10/13　樋口健二さん（フォトジャーナリスト）講演とスライド
「原発労働者40万人の実態―東電の現状―」
④ 11/4　教職員フィールドワーク「渡辺村と釜ケ崎」
講師（案内）：太田恭二さん・水野阿修羅さん

＊有志DVD鑑賞会　3/5「私を生きる」

9．2012年度大学・短期大学図書館開館にともなう中高図書館のあり方の検討
①現図書館の建物の利用方法
②中学・高校図書館としての開館予定の目途
③ネットワークと図書館システム以外の図書館予算、職員などの運営体制

図書館運営について
①書架の収容量が限界を超えていていたが、2012年度新図書館開館で蔵書を分散することで解消できる予定だった。しかし図書館建設延期により、当分の間の図書増加スペース確保のために蔵書の見直しをし、廃棄作業とふたつの書庫への移動作業を行った。
②職員の退職等に伴い、大切なことを残しながら合理化すべく業務全体の見直しを行なった。

１０．マルチメディア教室の準備
教育のマルチメディアの利用をよりすすめるために現在のコンピューター教室と、LL教室を統合し、2012年度よりマルチメディア教室として運用する。そのための具体的な準備を進める。

・2012年３月、従来のLL、２教室、コンピュータ教室が、マルチメディア３教室として運用する準備が　整った。ACの定期試験等も同時にデジタル化する。生徒の会話データもコンパクトデジタルプレー　ヤーに保存することとなり、いつでもどこでもイヤホンで再生可能な便利なものとなる。
・これまではコンピュータ助手の行っていたホームページ関係の業務を切り分けて、担当者を別にし、マルチメディア助手はマルチメディア教室を利用する教科の助手の業務に限定した。